

[016]Journal of Health Science

<http://hdl.handle.net/2324/4783606>

出版情報：健康科学. 16, 1994-03-15. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

編集後記

健康科学16巻の発行にあたり、論文作成に関する私見を述べてみたい。論文は、いつ、どこで、誰が、どんな興味をもって読むかが解らないという、ある意味では恐い側面を有している。論文には、批判がつきものだが、その批判に耐えうる内容の吟味は、投稿前にチェックされなければならない。共同研究者からの査読は、最低条件として実施されなければならない。さらに、専門領域を共有するが、共同研究者ではない、著者と親交のある研究者、及び恩師に査読してもらうとよい。メリットとしては、研究のプロセスや方法論、及び結果の解釈で生じるあらゆる妥協を除去できる点があげられる。紀要論文には、オフィシャルなレフリーがない。この点は、メリットでもあり、ディメリットでもある。論文は、活字となったら一人歩きして誰の目に止まるか解らない。そこで、読者の目に個々の論文がどう写るかで、評価は下される。個々の評価は、「健康科学」全体の評価ともリンクしていく。レフリーのいない気軽さ・自由さを謳歌しつつも、陰のレフリーがいるつもりで論文を仕上げるのが、紀要論文を創りあげるスピリットかもしれない。

「健康科学」発刊以来初めて総説論文が掲載された。総説論文は、これまでの研究成果と問題点を要約するのがその主たる役目である。この作業は、当然研究者として避けることができないプロセスであり、今後このような総説論文の投稿をも多いに歓迎したい。

(S. Ku.)

編集委員会 峰 松 修 金 谷 庄 蔵
熊 谷 秋 三 吉 田 毅

健康科学 第16巻

平成6年3月1日 印刷

平成6年3月15日 発行

(非売品)

発行責任者 山田裕章

〒816 福岡県春日市春日公園6丁目1番地

発行者 九州大学健康科学センター

印刷所 コロニー印刷
